

せたな町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

近年のせたな町は町村合併後も人口減少が続いており、高齢化も同時に進んでいる。また、マイカーの普及、人口減少、少子化などの影響により、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の低下が生じてきている。さらには、高齢化の進行により公共交通機関に頼らざるを得ない町民が増えており、公共交通の維持、確保の必要性が増していることから、町内バス路線をはじめとする赤字路線への財政的支援や一部路線のデマンド化を進めながら、交通不便地域の解消を図り、利便性の高い公共交通ネットワークの構築を目指す。

地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社
（複数自治体路線 1路線・町内路線 1路線）
- ・有限会社東ハイヤー
（複数自治体路線 1路線・町内路線 2路線）
- ・スクールバス
- ・患者輸送バス

生活交通確保維持改善計画の目標

○令和2年度の利用実績を参考

・瀬棚須築線	目標値	3,526人
・北檜山太櫓線	目標値	1,964人
・檜山海岸線	目標値	3,014人

協議会開催状況

- 令和4年6月22日 令和4年度第1回協議会開催
 - ・協議会事業報告、決算、事業計画案、予算案 等
 - ・デマンドバス運行事業実績
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請
- 令和4年10月18日 令和4年度第2回協議会開催
 - ・協議会設置要綱の改正、交通計画基本方針について
- 令和5年1月18日 令和4年度第3回協議会開催
 - ・地域公共交通確保維持改善事業事業評価について
 - ・せたな町地域公共交通計画案について

令和4年度 事業概要

○瀬棚須築線

運行形態：デマンド型フィーダー路線
運行事業者：有限会社東ハイヤー
運行状況：平日、上り8便・下り8便
 土日祝、上り8便・下り8便
運賃：1回200円

○北檜山太櫓線

運行形態：デマンド型フィーダー路線
運行事業者：有限会社東ハイヤー
運行状況：平日、上り6便・下り6便
 土日祝、上り6便・下り6便
運賃：1回200円

○檜山海岸線

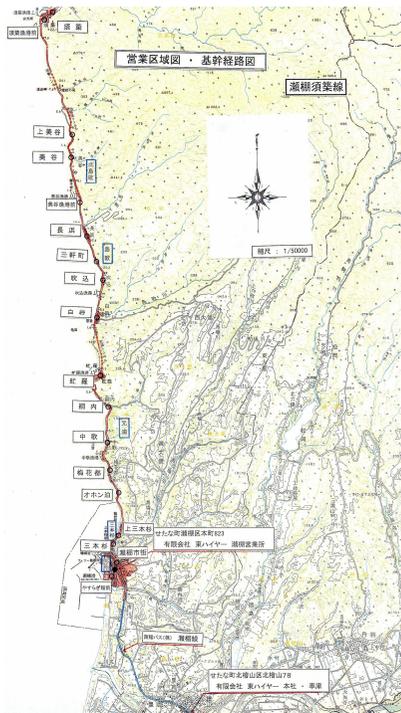
運行形態：デマンド型フィーダー路線
運行事業者：有限会社東ハイヤー
運行状況：平日、上り6便・下り6便
 日祝、上り4便・下り4便
運賃：1回200円

令和4年度事業の実施状況

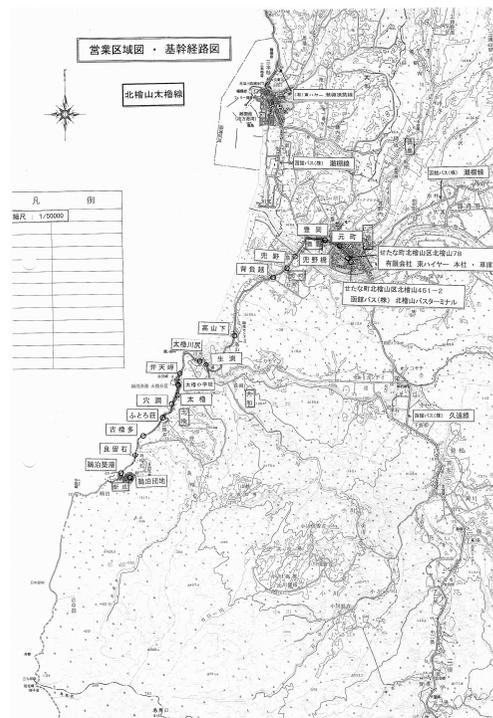
1) プロセス、創意工夫

- ・町広報誌による周知、運行地区全世帯への時刻表を配布などの住民周知を行った。
- ・数日先の予約についても、まとめて受付できるなど、利用しやすい受付体制を整えた。
- ・瀬棚須築線について、令和4年3月12日から平日土日祝ともに、上り6便・下り6便を、上り8便・下り8便に変更し利便性の向上を図った。

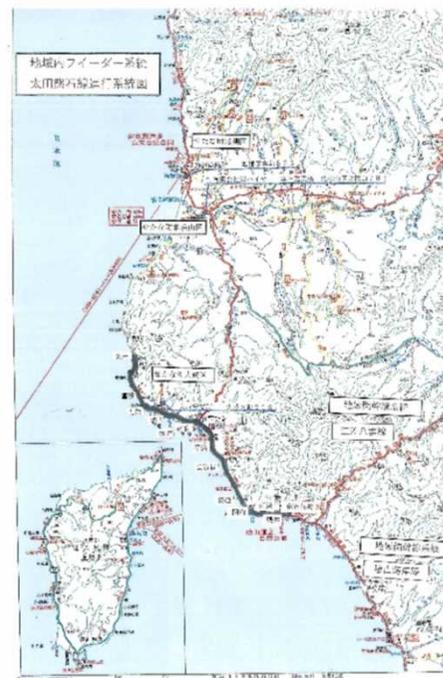
2) 運行系統



【瀬棚須築線】



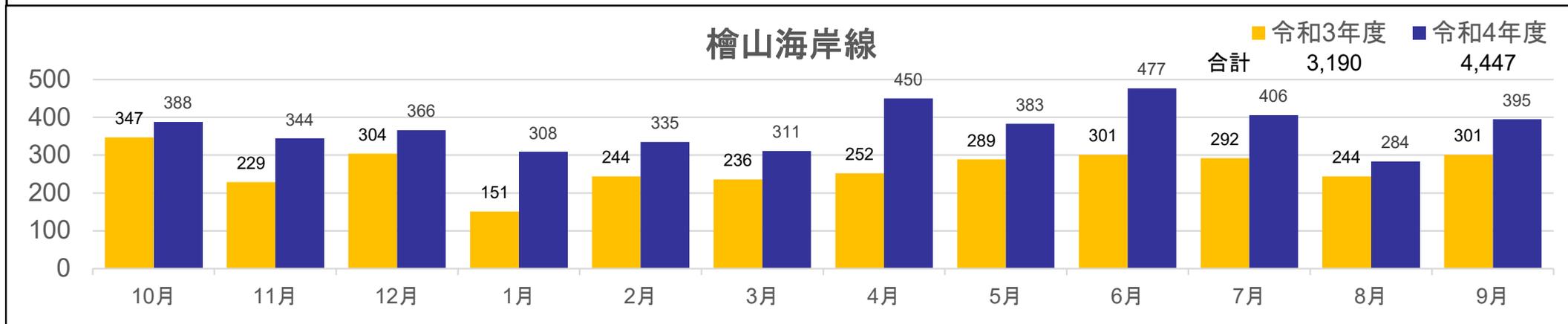
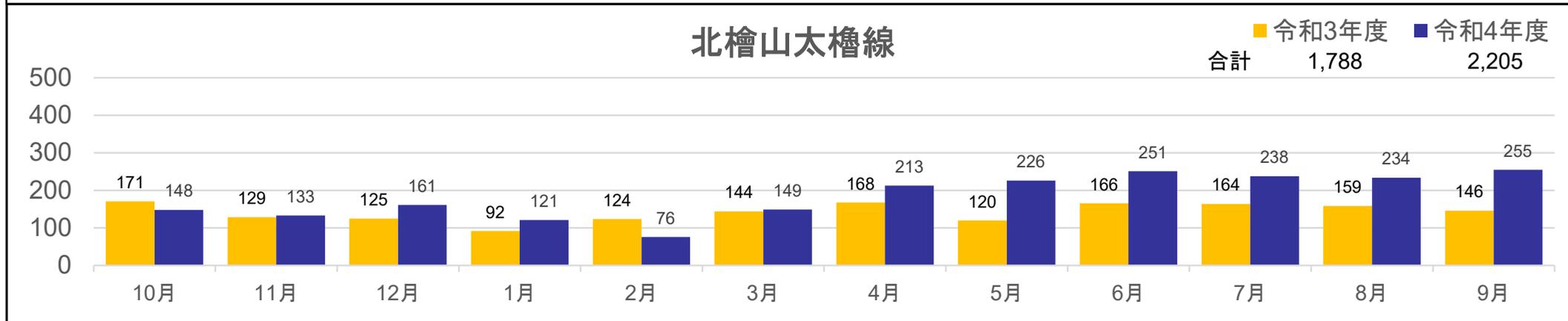
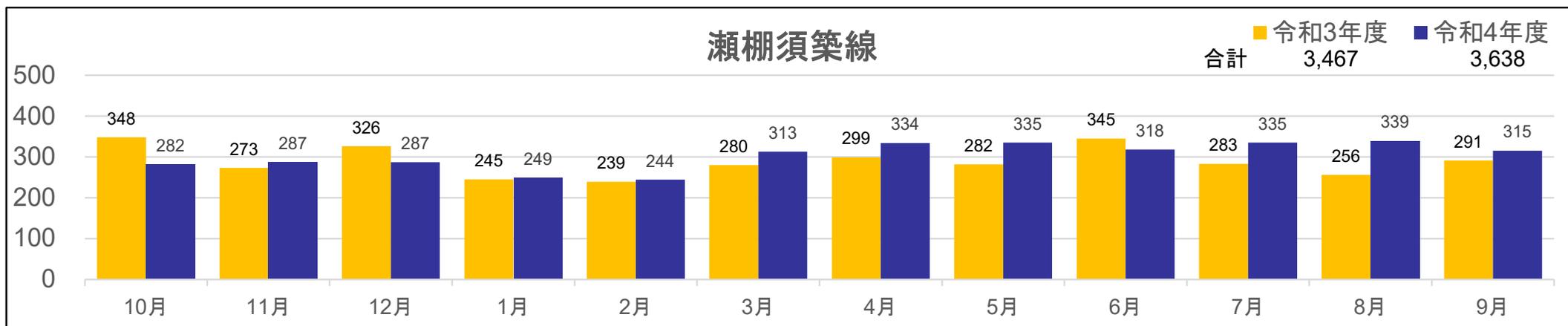
【北檜山太櫓線】



【檜山海岸線】

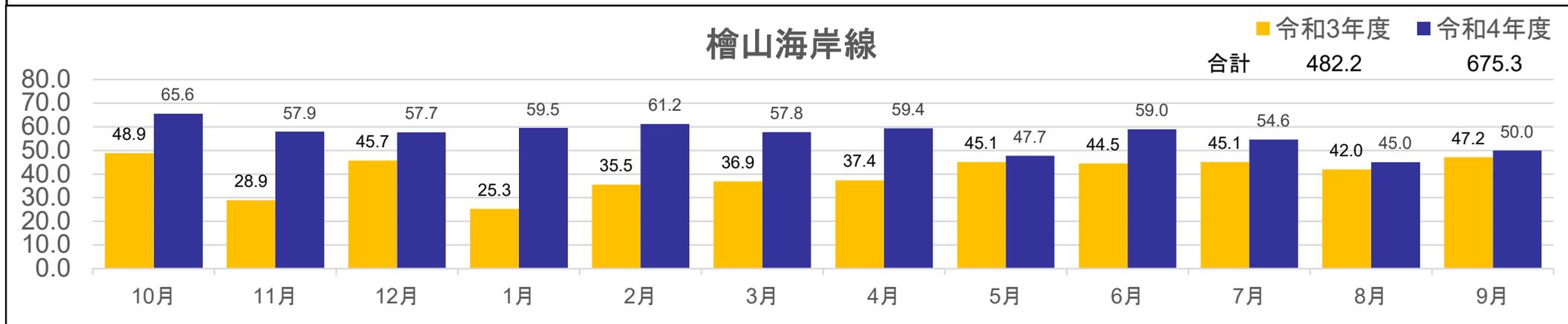
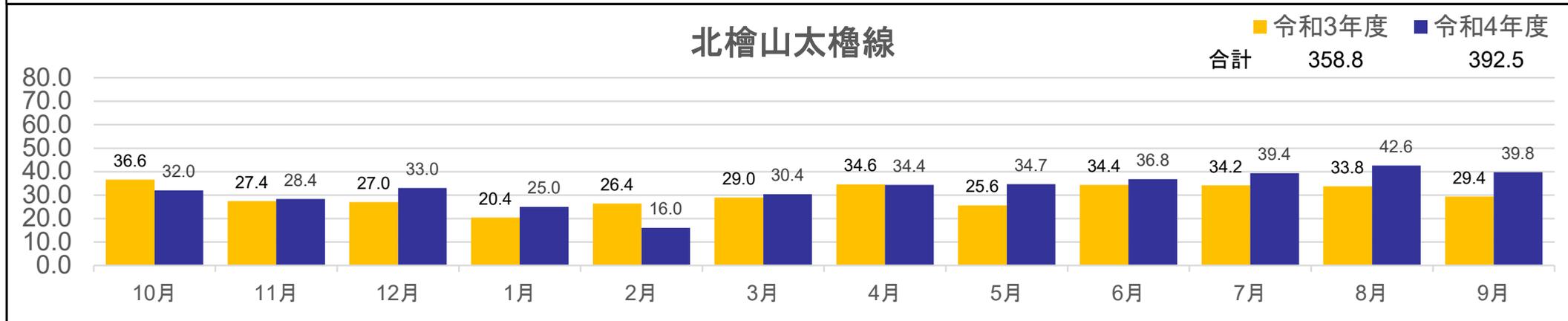
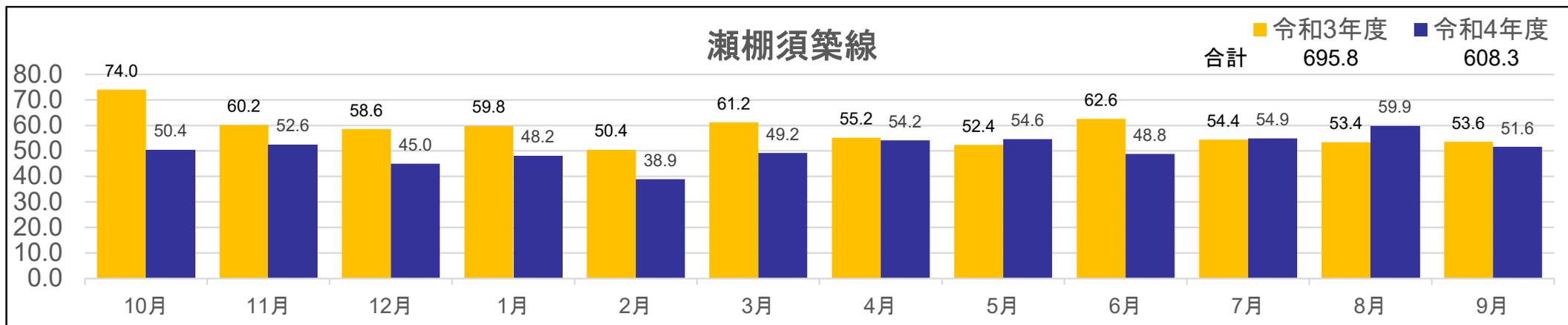
3) 利用実績

(単位：人)



4) 収入実績

(単位：千円)



5) 事業実施の適切性

- ・計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

- ・令和2年度の利用実績をベースに目標値を設定

利用実績：R3.10月～R4.9月

<瀬棚須築線>

年間目標値3,526人 利用実績3,638人 目標達成率103.18%

<北檜山太櫓線>

年間目標値1,964人 利用実績2,205人 目標達成率112.27%

<檜山海岸線>

年間目標値3,014人 利用実績4,447人 目標達成率147.54%

※コロナ禍ではあったが、段階的に予約バス事業への関心が高まってきており、効果的な取り組みとなった。

7) 事業の今後の改善点

- ・利用者の利用傾向や移動ニーズを適切に把握し、利便性の高まりが得られるよう検討する。
- ・町ホームページやチラシの配布等、町内外に向けた継続した情報発信を行い、利用促進を図る。
- ・利用者は高齢者が多いため、単なる情報発信ではなく、理解を促進する取り組みが必要である。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・ 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・ 瀬棚須築線の増便による利便性の向上を行ったこともあり、全ての系統において利用者数目標を達成することができたことから、今後新たな目標値を設定するにあたっては、持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。
- ・ 引き続き地域公共交通網形成計画に基づいた利用促進の取組を継続することを期待する。